

＜新木場＞気になるスポット 「島田小割製材所」を訪ねて

月報委員 細田俊輔

10月中旬、新木場2丁目の信号の先100メートルほど過ぎたところの角を左に入ったところにある、株式会社島田小割製材所様に訪ねて参りました。当日は本西常務理事・深谷委員長と一緒に伺い、島田社長に暖かくお出迎えいただき、お話を聞かせていただきましたので、ご紹介をさせていただきます。

工場の周りには、新木場ではあまり見られなくなった杉やヒノキの丸太が貯木スペースにあります。貯木スペース横の階段を上り2階の事務所内でお話を聞きます。打ち合わせスペースは、たたみ敷きの掘りごたつタイプ。座ってみると足の裏に心地よい感じがする。覗き込んで見るとヒノキキューブ。10mmぐらいのキューブが足裏のツボを刺激し気持ちよく、同時にヒノキのほんのりする香りも楽しめリラックス効果大です。8月13日放送の「ぶらり途中下車の旅」で紹介され、たくさんの方々から反響をいただき、問い合わせ、注文があり木のボールペン製作の方は、いっぱいだそうです。



丸太の貯木スペース



お客さんはワンちゃん？

島田社長に、事業内容をお聞きするとドッグラン用のウッドチップ生産販売で、3万頭のワンちゃんがお客さんとしていらっしゃるそうです。

以前は製紙用向けのチップの生産が主流だったそうですが、25年位前よりウッドチップをガーデニング向けやドッグラン向けにと用途転換を進め、地道に顧客を拡げていき、今ではメイン商品となっています。公園にあるウッドチップが敷き詰められた道を歩くと、足腰にも衝撃が少なく、杉やヒノキがやさしく香りに癒された経験が私にもあります。いつもお散歩はアスファルトの道路というワンちゃんには、ウッドチップが敷かれたドッグランは最高だと思います。

最近は、自宅のお庭にマイドッグランとしてウッドチップを敷き詰める方も多いそうです。

1 本の木に込められた想いを形に残す技

再開発や建替えて、伐採しなくてはならない樹木を新たな形にするアップサイクルする事業。旧丸ビル基礎に埋め込まれた松杭をチップにして紙の原料へ、ゴルフ場の立ち木を伐採し製材加工し椅子として返す、大切な思い出のある木を大事にしたいと伐採、製材、加工して大きなテーブルの製作等、伐採輸送製材加工とワンストップで出来る強味と技術を生かしてのお仕事。

ずっと身近に触れられる大切なボールペンへ。

ボールペンも旋盤を使用しての心のこもった手作り品。一点ごとに木目、色、重さも違い記念や贈答品にぴったりです。

最後に、写真を絢爛豪華なペットハウス「パレ・ル・シアン」(ワンちゃんの宮殿)の前で撮らせていただきました。宮殿を思わせる外装、ナラとローズの市松模様のフローリング、職人が作るステンドグラスなど、これまでなかった感動のペットハウスです。

ウッドチップの製造、製材加工の技術を生かした様々なアイデア、木材を最後まで活かし、新たな需要開拓に挑戦する島田社長の行動力が、ドッグラン用のウッドチップという新たな木材需要に繋がったと思いました。

最後になりますが、ご多忙中にも拘わらず、長時間に亘り楽しく分かりやすい説明をしてくださった島田社長と快くチップの製造工程、またボールペンの製造を見せていただいた社員の皆様に厚く御礼申し上げます。

株式会社 島田小割製材所
東京都江東区新木場2-10-11

電話：03-3521-8501

ウェブサイト <https://www.smd-wood.com/>



木のボールペン製作中



絢爛豪華ペットハウス
「パレ・ル・シアン(ワンちゃんの宮殿)」



ワンちゃんの宮殿内部



左：細田委員 中央：島田社長 右：深谷委員長